



Igroup

communication

Special

02

2021年6月発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

社員向け研修会について
心理士の配置について

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013

www.npo-aig.jp



社員向け研修会についてご報告いたします。 今回は、全国自立援助ホーム協議会九州ブロック内の 参加できる施設様にもご参加いただきました。

■ 研修会について

当法人は、年間研修計画を作成し実施しています。
今回は、社員向け研修会についてご報告いたします。
新型コロナウイルス感染症対策を十分にを行い、会場のホテルの定員数の50%未満で必要な距離をとり開催しています。
オンラインでの研修は、毎日のLINEを利用した朝礼とおとして行い、必要に応じてZOOMを活用した研修も行っています。
6月16日の定期総会に合わせて、社員向け研修会を企画して実施しました。
講師に長崎大学・熊本大学・北九州大学で臨床心理学の教授をされていた高原先生をお招きして、心理士と一般職員向けに「青年期の発達障がいを抱えた児童に対するアプローチの事例や、施設で働く心理士のあり方について」講演していただきました。
また、ご多忙にもかかわらず全国自立援助ホーム協議会 会長の串間様にも参加していただき、情報提供をいただきました。
今回は、当法人代表者が全国自立援助ホーム協議会 九州ブロックの副代表に就任したこともあり、九州ブロック内の自立援助ホームへ研修会のご案内を行い、参加できる施設様にもご参加いただきました。

福岡5施設、熊本5施設、宮崎2施設、オンラインにて長崎の施設の方にも参加していただき、意見交換など行うことができました。
新卒者からも課題の発表などがあり、各施設の方から助言をいただくことができました。

～高原あき先生のご紹介～

複数の社会福祉法人での障碍児・障碍者支援・北九州大学・長崎大学・熊本大学で臨床心理学・障碍児心理学の研究・教育に携わる。平成23年7月より熊本大学教授、平成24年4月より3年間熊本大学教育学部附属特別支援学校長を兼任。平成23年（2011年）東日本大震災、平成28年（2016年）熊本地震にて児童生徒 や障碍児者及び家族の心のケアに携わる。
現在は、臨床心理士初の国会議員を目指し、全国各地に訪問し活発に活動されています。
高原先生とは、当法人理事長が幹事を務める会にて知り合い、児童福祉の課題について共有させていただいています。

■ 心理士の配置について

2021年度新たな取り組みを始めました。
5施設に心理士を配属しました。
心理士は、自立援助ホーム内の職種としては指導員にあたる資格要件です。
予算のことだけを考えると採用に躊躇しましたが、多様化する児童の心のケアを考えたときに、利益よりも児童に必要な役割だと強く感じて取り組むことを決めました。
私自身、児童相談所の心理士の方に育てられた感覚があり、今の考えに至ったのもこれまでの経験によるものです。
これまで関わった児童に対して、できることもありました、できないこともありました。
この子を受け入れてはいけなかったのではないかと考えることは幾度とありました。
指導員を含めた職員の皆様も一生懸命に関わりを持ち、支えようと試みましたが、専門知識や専門職の力を欲することは絶えません。
訪問医やカウンセリングなども取り組もうとしても、児童が部屋に引きこもってはいは何もできません。
強引に行うことが有効な時もありますが、そうでない場面の方が多い。

職員も無力さを感じて、離職につながる。気が休まらない仕事です。

心理士を全施設に配属を行い、自立援助ホームの必要な人員と認められる事例をつなげられたら、心理職の新たな雇用を生み出すだけでなく、児童の心のケアを身近な職員が担うことで、児童の心身安定につながりより良い社会につなげられるのではないかとこの想いで取り組んでいます。
新たなことを始める時に、働いていただく心理士の皆様にはご苦勞をおかけしますが、数年後の児童との関係が達成感につながるよう取り組んでいきます。



取り組みや ホームの様子

当ホームのポリシーは、創設時から『明るく、楽しく』です。
いつでも明るく 楽しく、児童とのコミュニケーションを図っています。

■ 熊本県菊池郡菊陽町に位置する、 グループで唯一の男子ホームです。

朝から小鳥のさえずりと牛の鳴き声で目が覚めるほどの自然豊かな田舎ですが、この中でのびのびと児童一人一人が自立に向けて日々の生活を送っています。
今は残念ですが新型コロナウイルスの影響で、女子ホームとのBBQ交流会等も制限されて少し寂しい思いを強いられています。
でも、創設時からの明るく、楽しく、を当ホームのポリシーとして、児童とは日頃から何でも相談に乗ったり、ある時は愚痴を聞き、冗談を交わしたり、と児童とのコミュニケーションを図っています。
児童の中には就労し、貯金をして自動車運転免許取得を目指したり、就学をして高校卒業を目指したりと個人の方向性はさまざまですが、彼ら個人の目標を尊重してお互いに話し合いながら、その子に出来る私たちの支援は何なのか、どんな支援を必要としているのかを職員間で共有して対応しています。
今の就労場所での楽しいこと、嬉しかったことは共に共感し合い、

悩み事や辛い事、精神的なメンタルな面も細かな気付きでサポートケアをして継続就労を支援しています。
児童には厳しいようですが、あと2,3年後には成人となり社会に出ることになります。
今までのような甘えは許されないこともまた、今のうちに知ってもらう必要があると思います。

仕事を続けることの厳しさ、立ち足る人間関係の難しさ、とさまざまな困難に近い将来、待ち受けることになりますが、これらを乗り切



っていきける逞しい男に成長していけたらと願っています。

庵

まなび応援金と進学祝いを活用させていただくことで、
ある程度の資金援助を受けることができます。

■ 高校に通学している児童が5人になりました

自立援助ホームは、就労をして貯金をしながら一人暮らしを目指すことを指導していきますが、えんでは18歳までは高校卒業を目標にすることを指導しています。

家庭的な支援を大切に考えたときに、高校に通って生活力を身につけることも必要だという考えからです。

えんでは、進学祝いとして進学した児童には、進学祝いとして利用



料金を1万円免除しています。まなび応援金を活用させていただくことで、ある程度の資金援助を受けることができます。

児童たちは、安心して高校に通えて、18歳以降の就労に備えて生活を行うことが行えています。

■ コロナ対策について

児童が濃厚接触者になり、コロナ対策の経験を深めることができました。濃厚接触者と連絡があった時に、施設内職員・児童共に不安からパニックになりそうな状況でした。日頃からコロナ対策は十分にしていたので、取り乱すことはありませんでしたが、非接触を徹底するために、備品も購入しなおし、防護服も揃えて、個食と配膳下膳、食器洗いなど個別化することを行い、食事も配食やお弁当に変更しゴミはそのまま捨てるように対策をしました。数日が過ぎると児童からは、「手作りのご飯が食べたい」「早くみんなと話したい」などの言葉を聞いていると“あたり前のありがたさ”を再確認できる機会になったのではないかと思います。14日間の隔離生活を終えて解放された後も、食器洗いや配膳下膳などが習慣に変わったのは良い結果となったと感じました。これからもコロナ対策は続けて活動していきます。



えん

男子ホーム「庵」と交流会でバーベキューをしたり、
子どもたちが喜ぶような季節ごとのイベントを計画しています。

■ 心理士を中心に笑いが絶えない明るい施設づくりを

ラブでは、企業理念である「あるがままを知り、個性を尊重し、受け止めて、想いを支え、みんなの心豊かな明日へつなげるよう」職員一同頑張っています。

愛情を必要としている子どもたちが家庭的な雰囲気の中で安心して生活できる施設を目指しています。子どもたちが不安や困ったことがあった時に気軽に相談に乗れる雰囲気づくりを心掛け、心理士を中心に笑いが絶えない明るい施設を目指しています。

日々の生活の中で、ひな祭りのちらし寿司のような季節に合わせた料理を提供したり、児童と一緒に作ったりして、将来児童が自分で食事を作るよう支援を行っています。また誕生日会では本人の希望するものをプレゼントをしたり、本人の好きな料理を作ってみんなでお祝いしています。

男子ホーム「庵」と交流会でバーベキューをしたり、子どもたちが喜ぶような季節ごとのイベントを計画し、実行しています。春の天気の良い日に職員と一緒に近くの公園に花見に出かけ、子どもたちと

の交流を深め、楽しい時間を過ごしました。現在のコロナ禍では、児童が安全な生活を送れるよう、児童・職員一緒になってコロナ対策に取り組んでいます。共有部でのマスク着用・手洗い・うがいの声掛け、テーブルにはアクリル板を設置し、対策をしています。

退去時には、自信を持って社会に出て、人を思いやる心の持ち主になって、笑顔で施設を退去できるよう、職員一同支援しています。児童が退去後、結婚し子どもを連れて遊びに来られるような施設になるよう努力しています。



ラブ

周囲の豊かな自然と触れ合う機会や、
BBQの開催で新たな発見をする機会を設けています。

■ 心落ち着ける生活と居場所を

長崎県大村湾沿いの風光明媚な場所に位置する定員6名の女子ホームです。

企業理念である、「あるがままを知り、共育します。個性を尊重し、受け止めて、想いを支え、みんなの心豊かな明日へつなげる。」をモットーに、Innでは子どもたちが自分の力で生活していく道筋を職員と一緒に悩み、考え、経験を重ねています。地域の方と挨拶を交わし社会との繋がりを実感したり、近所の海辺で黄昏ながら気持ちを切り替えたりとそれぞれが自分に合った過ごし方を見つけられる居場所になっています。



主な取り組みとして、利用者全員で月に一度外出し、渦潮で有名な西海橋など周囲の豊かな自然と触れ合う機会や、BBQを開催し利用者同士や職員たちと楽しくご飯を囲み、自他共に新たな発見をする機会を設けています。

今一度、職員全員の役割や、施設内でのルールを入念に検討、再確認し、職員それぞれで出来ることは何かを見つめ直しています。

さらに、子どもたちが悩みやつまづきを話しやすい関係作りや、困り感を見落とさないよう、日々の子どもの様子を細やかに観察し気づけるよう積極的に関わっています。また、子どもたちが社会へ出た際にも継続した豊かな支援が行えるように、外部との連携を密に行い外部からの専門的な助言もいただきながら日々子どもたちの声に耳を傾けています。子どもたちには、自分と向き合う時間を作り、目標を見つけること、そして自分自身に希望を持って社会に羽ばたいていけることを願っています。



inn

我々がまず行うのは「観察」です。
子どものあらゆる部分をよく観察し、「傾向」を掴みます。

■ はじめの一步

今年度の4月に開設し、早いもので3カ月が経ちました。開設直後から次々とホームを利用する子どもたちが増え、あっという間に定員に迫ろうかという勢いです。元気いっぱいのおてんば娘たちに囲まれ、にぎやかなことは喜ばしくもあり、虐待やネグレクト、時には本人の非行など、様々な辛い過去を抱えている子どもたちが多くいることを痛感し悲しくもあります。

子どもたちのホーム利用開始にあたって、我々がまず行うのは「観察」です

性格・行動・生活習慣・思考力・表現力・判断力・学力など、子どものあらゆる部分をよく観察し、「傾向」を掴みます。

子どもの自立を促す支援の「はじめの一步」は、「観察し傾向を掴むこと」であると考えています。子どもが何を求めているのか、どんな力をもっているのか、あるいはどんな力が乏しいのか、等身大の子どものありのままを理解すること、そこからすでに支援は始まっています。

ありがたいことに、今ホームを利用している子どもたちは様々な表現方法でありのままの自分を我々に伝えようとしてくれています。子どもたちのおかげで我々も支援の「はじめの一步」を踏み出すことができました。

様々な生い立ちや過去を背負い、もがき苦しみながらやっとの思いで辿り着いたこの自立援助ホームLUCK。彼女たちの自立へ向けての道のりは決して平坦ではないでしょう。

しかし、彼女たちも我々スタッフも一歩踏み出すことができました。「はじめの一步」を「つぎの一步」へ。一歩ずつ、共に歩みながら自立にむけた支援の歩を進めていきたいものです。



LUCK

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



えん

黒木 成美

自立援助ホームえん

心理士

各児童にとって望ましい自立とは何か、関わりのなかで考え続けながら接することを大切にしています。

元々社会的養護に関わる児童や、被虐待児に対する心理的支援に関心があり、入職しました。自立援助ホームは、心理面接の場面だけでなく生活の場を児童とともにする時間が長く、一人一人の児童のより深い理解や援助につなぐことができるのではないかと考えたからです。児童個人の自主性を尊重しつつ、各児童にとって望ましい自立とは何か、関わりのなかで考え続けながら接することを大切にしています。

児童にとって、ホームが安心安全の場として機能することを目指し、社会や職員との関係の中で少しずつ周囲の人々を頼ったり頼られたりする経験を積み重ねていくことや、自己肯定感や自信を育むような関わり、声掛けを意識して行っていきたいです。

児童の自信につながるような関わりを目指す。

Profile

宮崎県出身です。
大学生時代を鹿児島で過ごし、大学院進学と就職のため福岡にきました。

ラブ

東 まどか

自立援助ホームラブ

心理士

児童それぞれに今必要な支援を判断し、提供できるように意識したいと思います。

児童が精神的に安定しているか、生活リズムや活動の様子からも把握するように努めています。
今後、心理面接を定期的に実施できるように計画・実施し、また心理士同士の話し合いや研修により、児童への心理支援をより良いものにしていきたいと考えています。
自立する準備時間(20歳まで)がどれくらいあるのかを把握しながら、児童それぞれに今必要な支援を判断し、提供できるように意識したいと思います。

児童の困りごとに対して、最初は職員が手を貸しながら、徐々に児童が一人でできる環境を作り、児童が出来た時には一緒に喜び、出来なかった時には挑戦したことを褒めて、次の挑戦が出来るように励ましていきたいです。
このような関係を支援者として目指したいと考えています。

児童の精神的・身体的な状態を気にかけている。

Profile

大学で心理学を専攻。
その後の経験から、心理学の知識を対人支援に生かそうと考えるようになり、公認心理師の資格を取得した。



大塚 有利子

自立援助ホームラブ

心理士

児童たちの本当のニーズとは何なのかを
吟味することを大事にしています。

児童たちや職員さんたちが作り出すフレンドリーな環境を大切にしています。また、新卒者という未熟な立場であることを常に認識し、優しい上司たちに甘えることなく、社会人としての振舞い方や考え方など謙虚に学び、様々なことを感得しているよう日々励んでいます。児童たちが心身共に安心できる場所を確保することはもちろん、児童たちの本当のニーズとは何なのかを吟味することを大事にしています。

また、焦らず子どもたちとの信頼関係を築き、一人一人への理解を深める事にも努めています。同時に他職員さんと、役職の垣根を越えて円滑に連携していけるようコミュニケーションも大切にしています。児童の可塑性を信じて支援していくことが大事なのではないかと思っています。

児童たちが
心身共に安心できる
場所を作りたい。

Profile

熊本県生まれ、5人家族の3姉妹の末っ子として育ちました。大学・大学院を修了し、現在新卒として仕事に励んでいます。

黒木 知佳

自立援助ホームラブ

支援員

その子の状態や状況に合わせた形やペースで
一番の最善な方法を考え行動してもらえるよう
子どもとスタッフの関係を築いていくことが大切。

子育てを通して「だれかの役に立つ仕事がしたい」という想いと、子どもの病気などの経験から、少しでも困っている状況の人たちの気持ちに寄り添える仕事がしたいと思い入職しました。私が考える支援とは、その子の状態や状況に合わせた形やペースで一番の最善な方法を考え行動してもらえるよう子どもとスタッフの関係を築いていくことが大切だと思います。

退居後は、頭では理解していてもやはり現実には厳しく大変だと身をもって感じることの連続だと思います。その時に生活の中で培った経験や知識、退居後の施設という頼る所がひとつでも多くあるということが、社会での現実での壁にぶつかった時に倒れることなく助かる術になると思っています。

主に調理や掃除など
身の回りのことを
しています。

Profile

熊本生まれの熊本育ちで3人兄弟の一番上として育ってきました。他人と関わるのが好きのため、ずっと接客業をしてきました。

inn

金内 美加子

自立援助ホームinn

指導員

日々の生活の中で、間違いや失敗をしたときに
一人一人の性格などに配慮しサポートや指導を行う。

対象年齢は違いますがこれまでの経験を生かした援助ができればと思います。職員同士が情報を共有し、児童が安心できる場に出来ればと思います。生活力や社会の一員としてのマナー(してはいけない事、しなければいけない事)など教えてあげたいと思います。不安や悩みを相談出来るような信頼関係をどのように築けばよいのか。指導の時にどのような方法や言葉かけが良いのか迷うことばかりです。

自分で考えて行動し将来に夢や希望を持てほしい。日々の生活の中で、間違いや失敗をしたときに一人一人の性格などに配慮しサポートや指導を行うこと。退去時にはinnで生活できて良かったと笑顔で退去してもらえたら嬉しいです。退去後も気軽に立ち寄ってもらえるようなホームになればと思います。

生活力や社会の
一員としてのマナーなどを
教えてあげたいと思います。

Profile

長崎生まれ長崎育ちです。子供3人孫2人楽しい毎日です。以前、保育園に務めていたこともあり児童の支援に携わる仕事をしたいと思っていました。

inn

鈴木 都

自立援助ホームinn

支援員

少しでも他人への依存をなくし、自己肯定感を
高めて欲しいのでたくさん褒めたいと思います。

恥ずかしながら、自立援助ホームというものをよく知らずに入職しました。6歳の息子がASD、ADHD(衝動性)の特性を少々持っており、福祉施設での療育活動を通し対処法を学んでいる最中です。ホームに入居している子どもたちも何かしらの特性がある子が多いので知識を身につけて活かせるようにしたいです。innでは支援員をしています。最も力を入れていることは、子どもたちとの信頼関係を築くために、一人ひとり名前を呼んでしっかり顔を見て笑顔で挨拶をすること、些細なこと、何かひと言でも会話するように心掛けています。課題としては、年齢的にも学歴にしても就労するのに困難な状況

で子どもたちの社会への関心のモチベーションアップに繋がる声掛けや指導などバリエーションを増やすことです。子どもたちには入居している間に少しでも他人への依存をなくし、自己肯定感を高めて欲しいのでたくさん褒めたいと思います。よく観察して適切な対応ができるよう学んで行きたいです。まずは子どもたちのそのまますを受け入れ、認めたくえで、どうしていいかわからない一緒に考える。自分で考え、自分の意見を伝えることの大切さ、時には助けを求める必要性もあることを学んで欲しいです。退去時には、自分自身を認められる人、興味を持って一歩前へ進める人になって欲しいです。

一人ひとり名前を
呼んでしっかり顔を
見て笑顔で挨拶をする。

Profile

長崎市に生まれ育つ。二人兄妹の妹。前職は動物看護師。現在は結婚し、6歳、4歳、2歳の3人兄妹の子育て中。



困った時やいざという時に
助けを求めることができる存在で
あることを目指していきます。

Profile

神奈川県で生まれ、3歳で長崎に移り住みました。大学院を修了後、現在公認心理師資格に向けて勉強しながら心理士として子どもたちと向き合っています。

inn

中村 史織

自立援助ホームinn

心理士

寂しい思いをしている子や
心に傷を負っている子のそばに寄り添い、
安心できる温かな居場所を作りたいと考えています。

心理面接だけでなく何気ない日々の生活の中でも子どもたちを支援したいと考えたことがきっかけで入職しました。

子どもたちが出す小さなサインや変化に気づき、その思いをしっかりと傾聴することに力を入れています。しかしながら、心理士としてありのままの姿を受容すること、時には指導するという、相反する役割の両立に日々悪戦苦闘しています。

私にとっての支援とは、自転車の補助輪のようなものだと考えています。子どもが本来持つ生きる力を引き出し、子ども自身が将来を選び取っていけるよう、必要なときにそっと背中を後押しすることであると考えています。そのために「子どもたちのために何ができるか」を考え、日々の生活から職員同士で連携し安定した対応をしていきたいです。



正しい情報を伝えるためにも、
学ぶことを続けていきます。

Profile

神奈川県横浜市出身。
自身の4人の子育てをしていく中で愛情を十分に与えられずに成長していく子どもたちがいることを知り児童福祉施設で働くことを目指す。

庵

石田 真知子

自立援助ホーム庵

指導員

個々の特徴を理解し言葉に発することが
なくても気持ちを汲み取れるような
支援ができればと思っています。

親元を離れ自立を目指す子どもたちの力になりたいと思い入職しました。

それぞれのストレングスを見つけ引き出すこと。そのままのあなたで良いと伝えたい。自分に自信をもつこと。

困った時や辛いときには家族以外の大人が寄り添ってくれることを知ってほしい。指導する側として勉強不足を痛感しています。

正しい情報を伝えるためにも、学ぶことを続けていきます。

一人一人抱えている問題が違うように関わり方や与えていくものも違っている。

個々の特徴を理解し言葉に発することがなくても気持ちを汲み取れるような支援ができればと思っています。

本来は親元で愛情を受けながら暮らすことができたはずの子どもたちが施設に入り自立を目指している。

大人に左右され現在(いま)があるならば、これから関わる大人からはたくさん力をもらって人生を楽しめる人になって欲しいです。

LUCK

中内 祥子

自立援助ホームLUCK

心理士

自己への気付きや課題を
自分で発見できるような面談を心がけています。

大学生の頃、社会的養護のもとで暮らす子どもたちに出会ったのをきっかけに、社会的養護のもとで暮らす子どもたちが、より幸せに暮らすために何かできることはないだろうかと考えるようになりました。

大学院修了後、医療機関でカウンセリングや心理検査の基礎を学び、学んだことを児童福祉の現場で生かして働きたいと思い、当自立援助ホームに入職しました。

子どもたちには、自分の気持ちや考えを言葉で表現する中で、自己への気付きや課題を自分で発見できるような面談を心がけています。

他者から言われたからではなく、なるべく自分で発見して主体的に動いていけるよう意識して関わっています。

自分についての理解を深め、「これがしたい」という前向きな気持ちで自立に向かっていって欲しいです。



なるべく自分で発見して
主体的に動いていけるように
意識して関わっています。

Profile

福岡県北九州市出身。大学を卒業後、大学院で心理学を専攻。臨床心理士、公認心理師の資格を取得。その後、医療機関・児童相談所での勤務を経て、現職に至る。

LUCK

杉山 由香里

自立援助ホームLUCK

心理士

心理学とかけて芸術療法を研究しながら、
子ども達の感性が生きるように
支援していきたいと思っています。

社会人しながら心理学の勉強を始めたきっかけは、家族が解離性同一性障害という病気になったことがきっかけでした。

家族であれど、無知の状態では到底理解することも、受け入れる事も困難だった為、当時はすごく迷いましたが、決心し勉強を始めました。

最初は家族の為に始めたことで仕事にしようとは思っていませんでしたが、私自身の社会人としての経験や、勉強で学んだことが、自立援助ホームの子ども達の役に立ってくれるなら嬉しい限りです。

私自身が趣味として、絵やお花など、芸術関連が好きなので、心理学とかけて芸術療法を研究しながら、子ども達の感性が生きるように支援していきたいと思っています。



私自身の経験で学んだことが、
自立援助ホームの子ども達の
役に立ってくれるなら
嬉しい限りです。

Profile

心理学系大学院在学中。自立援助ホームへ入る前は、百貨店やIT企業に勤めていた。異なる業種から新しい挑戦の為、参戦しました。